

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600487		
法人名	有限会社 光洋エステート		
事業所名	グループホーム 日吉		
所在地	苫小牧市日吉町3丁目1-9		
自己評価作成日	平成23年10月7日	評価結果市町村受理日	平成23年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域に開けたグループホームを目指し地域交流に力を入れている。 ・御家族と共に御入居されている御本人を支援できるように力を入れています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173600487&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年10月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム 日吉」は郊外の閑静な住宅地に立地しており、中庭を配した平屋建ての2ユニットである。居間、廊下、浴室、トイレなどのスペースは全体的に広く、車椅子での移動が容易である。当事業所は地域で支え合い認め合う暮らしを目指して10年が経過し、地域との関係作りを活発に進めている。運営推進会議には町内会役員の他、行政担当者や多数家族の参加を得て、地域全体で高齢者を支える「糸井西ネットワーク」の構想が討議されるなど有意義な会議になっている。会議には西ネットワーク内にある介護サービス事業者も参加し、徐々に地域との関係機関や商店などの組織作りを検討している。避難訓練後に運営推進会議を開き、火災以外の対策についても検討している。昨年より小学校との交流が頻繁になり、コンサートの招待を受ける一方、小学生の体験学習の中で手紙を交わしたり、普段にも児童がホームに立ち寄りなど活発になっている。管理者と職員は法人の地域プロジェクトチーム会議に参加して質の向上に取り組んでいる。利用者は食事作りに参加し、普段の散歩や買い物他にも年間の外出行事の希望を出して多彩な外出を楽しんでいる。</p>

サービスの成果に関する項目(A棟 アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット、玄関ホールに理念を貼り出し、共通認識を持つよう努めている。	地域の住民と支え合い認め合う内容を理念に盛り込み、住民との関係を築いている。職員の採用時には理念を説明し、内部研修で深めている。ケース会議やカンファレンスで理念を振り返り、対応を確認している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内、地域の行事に積極的に参加し、回覧板、散歩などで会う方に挨拶や交流を図っている。小学校、保育園との交流も心がけている。	敬老会の会合に参加し催しを楽しんでいる。昨年から小学校との交流機会が頻繁になり、コンサートの招待を受ける一方、小学生の体験学習の中で手紙を交わしたり、普段にも児童がホームに立ち寄るなど活発になっている。ボランティアの他、町内会婦人部や教会からの来訪もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、研修会の報告及び研修案内、ホーム内の日々の報告、入・退院状況、介護度等の報告を行い地域交流を密にしながら相談も受けるよう努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、研修会の報告、ホーム内の日々の報告、入・退院状況、介護度、苦情、ヒヤリハット等を報告し緊張感を持ちながら日々のケアに努めている。	運営推進会議は昨年のメンバーの他に、近隣の他介護事業所職員も参加し年8回実施している。高齢者を地域で支える体制作りを討議し、糸井西ネットワーク設立に至っている。更に地域の関係機関や商店に広める方向で検討し、会議は有意義な意見交換の場となっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	顔が見える付き合いを心がけており、疑問、相談、各行事への参加、協力依頼もお願いしながら開けたホームに努めている。	市の担当者は運営推進会議のメンバーで、火災避難訓練にも参加し協力関係を築いている。市からの「認知症サポーター養成講座」の講師依頼を受けたり、時には担当者が事業所に立ち寄るなど、常に相談し協力し合える関係にある。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各研修会の参加で理解を深めている。カンファレンスなどでも定期的に共通認識を持ち、可能な限り本人の気持ちに即したケアを努めている。理念と共にホームの取り組み宣言書として掲示している。	身体拘束の「18のチェックポイント」をカンファレンスで確認し、また外部研修での受講内容を伝達研修に充て、身体拘束の弊害に対する理解を共有している。声かけや禁止語なども勉強会で学んでいる。日中は玄関の自動ドアをフリーにして出入りを安全に見守っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	各研修会の参加で理解を深めている。カンファレンス等でも定期的に研修を行っている。理念と共にホームの取り組み宣言書として掲示している。		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、権利擁護、成年後見制度の必要としている入居者がいない為、積極的には学んでいないが、各研修会にて情報、理解を深めている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には口頭説明及び契約書を持ち帰っていただきゆっくりとお読み頂く時間をもち同意いただいている。入居後の変更、追加等の契約については家族会や説明会などを設け説明を行っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御家族には日々の面会時や、状況報告の連絡を入れた際などお聞きするように努めている。御家族、入居者にも定期的にアンケート調査を行い意見、要望をお聞きし出きる所から実行に努めている。</p>	<p>法人が実施した家族アンケートの結果についてカンファレンスで対応を検討し、運営推進会議や家族に報告し改善に努めている。行きたい場所の利用者アンケートを採り、意見を反映した外出行事や食事が楽しめるように取り組んでいる。意見などは個人ファイルに記録し共有している。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>特に設けていないが管理者には行事の立案時や入居者の意見などを伝えている。管理者は職員からの意見を代表者へ伝える様、努めている。</p>	<p>法人の地域プロジェクトチームに役職員の他に一般職員も参加し、運営やケアについて確認し対応に反映させている。職員は各担当を受け持ち、カンファレンスで業務の改善などを討議し運営に参加している。年に数回は管理者との個人面談もある。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の不安解消、向上が出来る様研修への参加を促している。待遇面でも改善に努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を立て就業年数により見合った研修を受けさせるよう努めている。同じ市内にある運営協力会社との合同研修も企画し向上出来る様努めている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>各部会の研修会、親睦会等へ参加させ交流を持てるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には出来るだけ本人にも見学に来て頂き不安解消出来る様に心がけている。入居日には相談時に関わった職員がフォローしながら不安が最小限になるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、御家族の不安や、悩みを一緒に共有しながら本人の生活をサポート出来るように心がけている。特に面会時には相談頂けるように時間をとるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向を聞いた上で本人の思い、御家族の思いをお聞きし、双方共に納得出来るような提案、相談に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事は、本人にして頂いている。一方的ではなく、どうしたらよいか？など共に考え自己決定できる場面を増やすよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の精神面、生活面での低下やリスク等の話をさせて頂いているが、御家族の精神的負担の軽減にも努めている。しかし、一部の御家族は本人との話し合いだけで済ませてしまい本意が伝わらない時もある。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用していたサービス場所への訪問や入院していた病院への本人との同行、老人クラブなどへの参加に努めている。 友人等の訪問を歓迎し感謝を伝えている。	幼馴染みの人や以前に所属していた老人クラブメンバーの来訪時には、おやつなどを出し過ぎしやすい雰囲気作りで迎えている。家族の協力を得て、生花、図書館、映画、吹奏楽団を見に出かけている。電話を取り次いだり手紙を書く機会を作り、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通趣味を生かした活動に努めている。特技を生かし、お互いを認め合えるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の状況によりケースバイケースで対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思の尊重、自己決定を促しながら行うよう努めている。	アセスメントシートに生活歴や趣味を記録し、見直し時には新しい情報を加えて利用者の思いや言葉を介護計画に反映させている。行事アンケートで希望を聞くなどして、可能な限り意向に添えるよう対応している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当者からの情報提供や、御家族、御本人にお聞きしながら日々の生活に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個々のアセスメント・会話などで変化を見抜けるよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、御家族の意向は出きる限りお聞きするように努めている。 日々アセスメントを行いながら現状に即した計画が立案できる様、ケース会議を行える様に努めている。	本人の会話や家族の意向を聞き、主治医や訪問看護師からの情報を盛り込んで介護計画を作成している。3ヶ月ごとに見直す際に職員もアセスメントシートに状態を記録し、会議で評価して更新計画に繋げている。個人ファイルの中に介護計画の一連の流れが分かりやすいように綴られている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々のアセスメント及び申し送りノート、センター方式のシートなどを活用し情報共有、見直しに努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	アンケートや日々の会話から本人の意向を汲み取り取り組むように心がけている。(買い物、外食、図書館、散歩など)		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望者は老人クラブ交流会、町内会のごみ拾い、小学校行事、町内会行事などへの参加。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理等も含め定期受診及び随時受診を行っている。検査結果や服薬変更等も御家族へ報告すると共に心身面で心配されている事柄もドクター、医療連携看護師に相談し報告に努めている。	月1回協力病院への定期受診と週1回歯科医の往診になっている。その他の病院受診時には家族に医療情報を渡したり、必要時には職員も同行し各主治医との連携を密にしている。個人ファイルに受診記録を綴り職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時医療連携看護師及びかかり付け医に相談できる体制作り、情報提供に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を行い、御家族の意向をお聞きしながら相談できる体制作りを努めている。面会などを通し、病棟の看護師より情報をお聞きしたり、MSWとの関係を深めるように心がけている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族には日々の面会時や、状況報告の連絡を入れた際など今後予測される事等も含め話をさせて頂いている。医師ともその時々々の状況において相談させて頂いている。職員は終末期への不安が大きく不安を取り除けるよう研修・講演を聴く機会を設けたい。	利用開始時に重度化した場合の対応方針を文書で説明し同意を得ている。状態の変化時には家族と方針を確認しているが、看取りについて事業所の対応がどこまで可能か文章化を含め模索しているところである。職員は外部研修でターミナルケアを学び、伝達講習で共有している。	事業所としての具体的な看取り対応方針の文章化を検討されているので、継続しての取り組みに期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回救急法、異物除去の研修を行っている。他随時研修会参加し習得出来る様に心がけている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難・災害訓練を入居者、家族、地域の方達も含め行っている。	日中、夜間を想定した避難訓練を実施し、運営推進会議のメンバー以外に近隣の方の参加も得て利用者を見守っている。火災以外の地震、津波、水害など地域連携での避難や対策を話し合っている。災害時の備蓄類の保管、また職員の救急救命の訓練も受け、緊急時に備えている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちに反した言葉を使用しないように職員全員で気をつけている。個人情報保護、プライバシーポリシーの移管してもカンファレンスで話し合いの機会を設けている。	個人情報の保護や身体拘束禁止についての勉強会を実施して職員の意識を高めている。利用者の呼び方については本人や家族の希望をもとに、もっとも馴染みやすい呼び方を採用している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での提案は入居者にお聞きし決めて頂くように心がけている。常に自己決定がなされている。出来る限り本人主体の生活をして頂いている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出きる限り本人のペースに合わせるように支援するように努めているが、職員数や時間帯によっては職員側の動きになってしまっていることもある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に起床時には洋服の選定や整容に心がけている。行事の前には希望者にはメイクボランティアをお願いしメイクして頂くこともある。		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常に複数名で台所に入られ、準備、調理、盛り付け、片付けと一緒に行われている。調理中の状況により、好みのメニューや味付けなども行われている。	献立は食材業者のメニューに従っているが、希望によって随時変更している。利用事業者と食材会社との給食会議で定期的にメニューが検討される。利用者も可能な限り調理関連作業に参加し、畑の作物を食卓にのせるなど食事を楽しむ工夫をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は運営協力会社の管理栄養士が立てており、食べ易く調理することで摂取しやすい心がけている。水分量、摂取量は個々のアセスメントなどにより把握。食事形態等それぞれ個々の状態に合わせ提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1週間に1度、協力歯科医より訪問診療に来て頂いており、義歯の不具合やかみ合わせ、口腔ケアに関するアドバイスを頂いている。ほぼ全入居者、毎食後、歯磨きの習慣有。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全ての入居者がトイレで排泄できる様心がけている。アセスメントにより時間間隔の把握を行い声掛け、誘導を行う。	排泄時間が逐一記録されパターンが把握されており、適切なタイミングで失禁のないように誘導している。おむつからパット、布パンツへと改善された例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服薬時間、服薬量の調整も行うが、牛乳、ヨーグルトなどの乳製品の摂取やりんごなどを食べて頂く他、排泄時、腹部マッサージなど行うよう心がけている。散歩、体を動かすなどの工夫もしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な時間は決めているが、受診や本人の意向で入られない場合、時間や、曜日にとらわれず支援するよう心がけている。(1週間に最低2回は入って頂くようにしている)身体の状態(汚染等)に合わせて柔軟な対応を心掛けている。	日曜日を除く毎日、午後が入浴時間帯になっている。各人、週に2~3回は入浴できるようにしている。入浴を渋る利用者は、入浴しやすくなるようなタイミングを作って無理なく誘導する工夫をしている。寝る前には全員、毎日清拭をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のサイクルに合わせた就寝、起床時間を支援。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の準備、確認時、説明書にて効能、副作用等も把握するよう心がけているが症状の変化までは確認できていない。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の後片付けや、テーブル拭きなどできる部分での参加を頂いている。月の行事の他に紙芝居や慰問等協力有。		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	アンケートをとり希望を募ったり、日々の会話の中でその日にできることは(散歩、外での食事など)すぐに実行し、計画性のいるものに関しては予定を立てて行くよう努めている。町内の盆踊り(夜間)は町内会や御家族の協力を頂き、遠方への外出は御家族も一緒に参加できる体制を心掛けている。	外出は本人の発意に任せず積極的に誘っている。近くの海辺や公園への散歩は毎日のように実施し、利用者によっては日に複数回外出している。行事の外出は利用者の希望を取って行き先を決め、初詣、盆踊り、イルミネーション見物、花見など多彩な機会を作って外出している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な日用品などはホーム立替で行っているが、御本人の意向、御家族の承諾にて自分で管理し、買い物をしている方もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により家族、知人への連絡、外部からの電話、手紙等取次ぎを行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時々を季節を感じることができ環境づくりを心がけている。(できる部分は入居者と共に作っている) 夜間には夜間帯の照明、居室には足元などで安全の確保をしている。日中と夜の区別が出来るような照明設定を心掛けている。	全体に共用空間のスペースが広く、広いエントランスホールの両側に玄関があり、広いリビング兼食堂の一隅に畳敷きの小上がりがある。トイレも広く、車椅子で楽に入れる。廊下やリビングの壁には季節の飾りや利用者の作品、写真などが飾られて、明るく楽しい雰囲気を作られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳、TV前の空間、食卓テーブル、廊下等、椅子やソファを置きつつる環境づくりを心がけている。自由に居室に戻り過ごされ、入居者同士、訪問し合い雑談している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物、本人が気に入ったもの、安心して生活できる用品等を配置するよう御本人、御家族、職員共に相談し決めるようにしている。	今まで大切に使い慣れたような箆笥や椅子が持ち込まれ、仏壇、テレビ、自作の塗り絵や家族の写真、絵手紙、その他装飾品などがそれぞれの個性ある居室を作っている。各部屋に洗面所が設置され、プライベートな生活空間が守られている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に飾り物をする、排泄時なども本人の動きに合わせた場所での支援など心がけている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600487		
法人名	有限会社 光洋エステート		
事業所名	グループホーム 日吉		
所在地	苫小牧市日吉町3丁目1-9		
自己評価作成日	平成23年10月8日	評価結果市町村受理日	平成23年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「A棟 ユニット」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173600487&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年10月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(B棟 アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット、玄関ホールに理念を貼り出し、共通認識を持つよう努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内、地域の行事に積極的に参加し、回覧板、散歩などで会う方に挨拶や交流を図っている。小学校、保育園との交流も心がけている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、研修会の報告及び研修案内、ホーム内の日々の報告、入・退院状況、介護度等の報告を行い地域交流を密にしながら相談も受けるよう努めている。地域の方に向け認知症サポーター養成も行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、研修会の報告、ホーム内の日々の報告、入・退院状況、介護度、苦情、ヒヤリハット等を報告し緊張感を持ちながら日々のケアに努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	顔が見える付き合いを心がけており、疑問、相談、各行事への参加、協力依頼もお願いしながら開けたホームに努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各研修会の参加で理解を深めている。カンファレンスなどでも定期的に共通認識を持ち、可能な限り本人の気持ちに即したケアを努めている。理念と共にホームの取り組み宣言書として掲示している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各研修会の参加で理解を深めている。カンファレンス等でも定期的に研修を行っている。理念と共にホームの取り組み宣言書として掲示している。		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護、成年後見制度の必要としている入居者がいない為、積極的には学んでいないが、各研修会にて情報、理解を深めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には口頭説明及び契約書を持ち帰っていたきゆっくりとお読み頂く時間を持ち同意いただいている。入居後の変更、追加等の契約については家族会や説明会などを設け説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族には日々の面会時や、状況報告の連絡を入れた際などお聞きするように努めている。御家族、入居者にも定期的にアンケート調査を行い意見、要望をお聞きし出きる所から実行に努めている。運営推進会議においても上期・下期の決算報告を行っている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に設けていないが管理者には行事の立案時や入居者の意見などを伝えている。管理者は職員からの意見を代表者へ伝える様、努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不安解消、向上が出来る様研修への参加を促している。待遇面でも改善に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業年数により見合った研修を受けさせるよう努めている。同じ市内にある運営協力会社との合同研修も企画し向上出来る様努めている。苫小牧市内で行われている関連研修には勤務調整など行いながら参加できる体制を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各部会の研修会、親睦会等へ参加することで交流を持てるように努めている。今年6月に近隣町内会、介護保険サービス種別の複数事業所(7カ所)と地域ネットワークを設立し始動しはじめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には出来るだけ本人にも見学に来て頂き不安解消出来る様に心がけている。入居日は相談時に関わった職員がフォローしながら不安が最小限になるよう努めている。入居日の夜勤はベテラン職員が対応できる様配慮している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、御家族の不安や、悩みを一緒に共有しながら本人の生活をサポート出来るように心がけている。特に面会時には相談頂けるように時間をとるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向を聞いた上で本人の思い、御家族の思いをお聞きし、双方共に納得出来るような提案、相談に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事は、本人にして頂いている。一方的ではなく、どうしたらよいか？など共に考え自己決定できる場面を増やすよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の精神面、生活面での低下やリスク等の話をさせて頂いているが、御家族の精神的負担の軽減にも努めている。しかし、一部の御家族は本人との話し合いだけで済ませてしまい本意が伝わらない時もある。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用していたサービス場所への訪問や入院していた病院への本人との同行、老人クラブなどへの参加に努めている。友人等の訪問を歓迎し感謝を伝えている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通趣味を生かした活動に努めている。特技を生かし、お互いを認め合えるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の状況によりケースバイケースで対応している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思の尊重、自己決定を促しながら行うよう努めている。行事ごとアンケート調査を行い決定したり本人の遺志により参加の有無を決めるようにしている。複数名の担当によりケース会議を開き検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当者からの情報提供や、御家族、御本人にお聞きしながら日々の生活に努めている。スタッフ間もケース会議を行い情報共有をするよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個々のアセスメント・会話などで変化を見抜けるよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、御家族の意向は出きる限りお聞きするように努めている。 日々アセスメントを行いながら現状に即した計画が立案できる様、担当のスタッフ複数名でケース会議を行える様に努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変則勤務の中、個々の日々のアセスメント及び申し送りノート、センター方式のシートなどを活用し情報共有、見直し、記録の充実に努めチームケアに生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	アンケートや日々の会話から本人の意向を汲み取り取り組むように心がけている。(買い物、外食、図書館、散歩など)		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望者は老人クラブ交流会、町内会のごみ拾い、小学校行事、町内会行事などへの参加。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理等も含め定期受診及び随時受診を行っている。検査結果や服薬変更等も御家族へ報告すると共に心身面で心配されている事柄もドクター、医療連携看護師に相談し報告に努めている。状況に応じてはご家族と一緒に受診も行っている。		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の定期訪問による健康管理、情報共有、随時医療連携看護師及びかかり付け医に相談できる体制作りにも努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を行い、御家族の意向をお聞きしながら相談できる体制作りにも努めている。面会などを通し、病棟の看護師より情報をお聞きしたり、MSWとの関係を深めるように心がけている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族には日々の面会時や、状況報告の連絡を入れた際など今後予測される事等も含め話をさせて頂いている。医師ともその時々状況において相談させて頂いている。職員は終末期への不安が大きく不安を取り除けるよう研修・講演を聴く機会を設けたい。現在、具体的内容を検討中。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回救急法、異物除去の研修を行っている。他随時研修会参加し習得出来る様に心がけている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難・災害訓練を入居者、家族、地域の方達も含め行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちに反した言葉を使用しないように職員全員で気をつけている。個人情報保護、プライバシーポリシーについてもカンファレンスで話し合いの機会を設けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での提案は入居者にお聞きし決めて頂くように心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出きる限り本人のペースに合わせるように支援するように努めているが、職員数や時間帯によっては職員側の動きになってしまっていることもある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に起床時には洋服の選定や整容に心がけている。訪問理美容により個々の思いにて髪染めやパーマなども支援。行事の前には希望者にはメイクボランティアをお願いしメイクして頂くこともある。		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	積極的に調理、後片付けなど行っていただいている。時には嗜好品の外食、買い物で楽しみを設けている。好みに合わせたメニュー変更、味付けも行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は運営協力会社の管理栄養士が立てており、食べ易く調理することで摂取しやすい心がけている。水分量、摂取量は個々のアセスメントなどにより把握。本人の状況により食事形態を配慮し提供。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1週間に1度、協力歯科医より訪問診療に来て頂いており、義歯の不具合やかみ合わせ、口腔ケアに関するアドバイスを頂いている。ほぼ全入居者、毎食後、歯磨きの習慣有。保健所の歯科医師より研修もしていただいている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員トイレでの排泄が出来るよう心がけている。排泄誘導時、尿意確認を行い誘導。アセスメントにより時間間隔の把握も行う。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服薬時間、服薬量の調整も行うが、牛乳、ヨーグルトなどの乳製品の摂取、接種時間の検討やりんごなどを食べて頂く他、排泄時、腹部マッサージなど行うように心がけている。		
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な時間は決めているが、受診や本人の意向で入られない場合、時間や、曜日にとらわれず支援するよう心がけている。(1週間に最低2回は入って頂くようにしている)身体状況、汚染の状況などにより柔軟な対応を心掛けている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の思い思い、食後、畳やソファでの休息をしている。夜間は寝やすい場所、ホットミルク、足欲等希望者には行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の準備、確認時、説明書にて効能、副作用等も把握するよう心がけている。薬に関しての相談は常に連携をしている薬局の薬剤師に聞くことで相談、確認を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とすること(掃除・料理・裁縫など)を行っていただけるよう心がけている。月の行事の他に紙芝居や慰問等協力有。1週間に一度訪問販売もあり個々に買い物も楽しめている。		

グループホーム 日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>アンケートをとり希望を募ったり、日々の会話の中でその日にできることは(散歩、外での食事など)すぐに実行し、計画性のいるものに関しては予定を立てて行うよう努めている。町内の盆踊り(夜間)は町内会や御家族の協力を頂いている。行事は常にご家族の参加は自由だが、特に遠方への外出は御家族も一緒に参加できる体制を心掛けている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要な日用品などはホーム立替で行っているが、御本人の意向、御家族の承諾にて自分で管理し、買い物をしている方もいる。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話、手紙の希望があれば支援している。手紙、贈り物を頂いたときは礼状や、電話を本人が出来るように支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>その時々季節を感じる事ができる環境づくりを心がけている。(できる部分は入居者と共に作っている)</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>畳、TV前の空間、食卓テーブル、廊下等、椅子やソファを置きつるげる環境づくりを心がけている。自由に居室に戻り過ごされ、入居者同士、訪問し合い雑談している。職員も、ここでの落ち着ける場所の把握に努めている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの物、本人が気に入ったもの、安心して生活できる用品等を配置するよう御本人、御家族、職員共に相談し決めるようにしている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の入口に飾り物をする、排泄時なども本人の動きに合わせた場所での支援など心がけている。一緒に調理(出来る範囲)や食材の検品、本人の特性を生かした事務作業などを行っていただいている。</p>		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 日吉

作成日：平成 23年 11月 21日

市町村受理日：平成 23年 11月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	終末期や重度化した場合の対応方法を文章で同意を得ているが、状態の変化時には家族と方針を確認しているが、看取りについて事業所として何処まで可能か文章化を含め模索している状況。	終末期や重度化した場合の対応方法を文章で同意を得ているが、状態の変化時には家族と方針を確認しているが、看取りについて事業所として何処まで可能か文章化し書面にての取り交わしをする。(事業所独自のインフォームドコンセントの作成)	今まで御家族と取り交わしてきた確認事項や他のグループホームのインフォームドコンセントなどの情報収集を行い日吉独自の書面を作って行く。家族会などでも投げ掛け一緒に考える	4ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。